

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものであるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まず。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかえる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含まず。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含まず。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	大口めぐみの里
(ユニット名)	2号棟
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県大口市曾木480番地
記入者名 (管理者)	橋口るみ子
記入日	平成 21年 10月 1日

地域
差

部分
は外

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、住民との交流のもとで理念を作り上げ、その人らしく生活することを支えるケアを目指している。</p>	<p>住み慣れた地域で、安心した生活が送れるような支援体制を理念の柱とした。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員間で理念に基づいた支援ができていないか、常に話し合いの機会を設けている。また、それらが反映されている。</p>	<p>職員全体で具体的なケアについて話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>御家族への説明の折、訪問時や介護サービス計画書など事務所の理念を伝えている。</p>	<p>地域の方々へ、事務所の理念を伝える場を多く設け、さらに広く理解していただけるよう取り組みたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩やレクリエーション活動などで、気軽に声を掛け合っている。</p>	<p>野菜や花などを頂いたり、事務所側も祭りのときなど、手製の弁当を近隣の方々に配る関係が築かれている。</p>
5	<p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近隣の小学生が、交流の目的でボランティア活動に参加してくれる。</p>	<p>学校の行事など、昨年同様に参加していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	進んで実習生の受け入れをして、人材育成の貢献に努めている。	○	事務所が利用者のプライバシーや不安について配慮しており、その成果を地域に伝えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者が、評価に前向きに取り組み、職員も実施することの意義を理解し、サービスの質を向上していこうとする姿勢がみられる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二カ月に一回開催されるが、取り上げられた検討事項について、その経過を話し合い一つずつ積み上げていくようにしている		意見が活発に出ている。これからも意見の出しやすい雰囲気で行っていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市・町・村、担当窓口に、事務所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、職員の理解を深めるようにした。研修にも参加した。	○	職員の理解が十分でないので、再度わかりやすい資料を用いて勉強会を開き、活用できるようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会などで、常々指導している。そのため虐待防止の意識もあり、職員の関心も高い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用する際、起こり得る事項や料金問題など、また重度化看取りについての対応や医療連携体制の実情などを詳しく説明し、同意を得ている。		事務所として出来ること、出来ないことを明確にしていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力をしている。		意見や苦情に対しては速やかに話し合いの場を設け、解決策を見出し伝えていくプロセスがある。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御家族の来訪時には利用者の状況を伝えている。さらに、ケアマネージャーが暮らしぶりについて、月に一度手紙で伝えている。金銭台帳を開帳し、サインを頂くようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族内で話し合って頂くよう時間を設けている。意見や苦情があった場合、代表者から申し出いただいている		御家族からの要望には、早急に対応している
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会を月一回開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組み、その都度必要に応じて職員への配置を考えている。		夜間の対応に於いて、医療に関することは24時間、看護師が対応する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって、馴染みの職員が継続的に支える体制を執っている。異動や離職でやむを得ない場合は、影響を最小限に抑えるために説明をし、引き継ぎをしている。		二つのグループホームで常に交流を行い、異動にともなう不安を解消するように努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
に			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所の学習会や研修など、認知症に関する講演にも、積極的に参加するように計画を立てている。	研修後の報告は、全体ミーティングで発表できるように、体制を執っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型協議会を通じて、他の事業所と意見交換し、相互に施設の見学を行い、交流する機会を多く設けている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常、職員の人間関係に於けるストレスや悩みを把握するように努め、的確なアドバイスをしている。	各職員が勤務に励むよう、休日を考慮している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に対して支援をしている。勤務調整を行い、各職員が向上心を維持できる体制づくりをしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者に安心感を持って頂くよう、本人の思いや、不安を受け止めることに努めている。	事前面談で、生活状況の把握を行っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に初めて訪れた御家族に、現在困っていることは何か、必要とされていることをよく聞くことで落ち着いてもらい、次の相談に繋げている。	利用についての説明を先にせず、家族の内にある、途惑いや困惑など話を聞く姿勢を見せよう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の相談はとても重視されている。相手の必要とする支援を見極め、適切な対応が出来るよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の主体である本人の意思を、十分尊重していくことを第一に考えて、施設内を見学していただくことから始める。スタッフとコミュニケーションをとれる場を設けて、回数を重ねていく。		急な入所になった場合でも、本人や家族が安心感を持てるように対処している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の不安や喜び、楽しみなどを知ることに努め、毎日の生活の中で分かち合うように努めている。		昔の食べ物の作り方や、子供の育て方を聞き、人生の先輩として尊敬している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の、日々の生活の中での様子や、気付いたことを、情報として共有し家族とともに支援出来ている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出(墓参りや買物)や外泊で、家族と一緒に過ごしていただくようにしている。夏祭りなどの行事へ参加を呼び掛け、良い関係を築いていけるように支援している。		家族や本人の思いを受け止めて、両者の思いが結び付くような働きかけをしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋・美容室に出かけたり、友人や知人に来訪していただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やティータイムのときも、利用者同士の関係を把握し、円滑になるように職員が会話を持ちかけるなど、声かけをするように努めている。		利用者が集団の中で孤立しないように、支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、季節毎の行事に招待したり、ハガキなどで近況を伺うなど、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が、自分の思いを言葉にしにくい時は、行動や表情からそれらを汲み取り、把握するように努めている。意思疎通が困難な場合は、御家族から情報を得る。		本人の視点に立つことを考えて、皆で話し合い、利用者のケアに努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から、自身の話を聞いたり、御家族から暮らしぶりなど情報を得て、把握に努めている。		プライバシーへの配慮をしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の暮らし方や、食事・排泄・睡眠など生活のリズムを把握している。利用者の出来ることに目を向けていくようにする。		一日の暮らし方や、生活のリズムの把握に努めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らすために、本人や家族の要望を聞き、ミーティングに於いて、スタッフ全員が意見を出し合い、介護計画の作成に取り組んでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画に変化が生じる場合は見直しを行い、本人・家族と話し合いながら、現状に応じた計画を作成し、提供している。		事業所が出来る部分、出来ない部分をしっかり伝えていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個別状況、ケアを行うなかで気付いたことや工夫などを記入し、職員間で情報を共有することで計画の作成に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院や緊急時の対応を行っている。近隣の認知症高齢者の方に、状況に応じてショートステイやデイサービスを提供している。		医療連携体制加算の指定を受けて、多機能な部分を活かしながら支援していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人や地域との接点を見出し、民生委員・ボランティア・小中学校への働きかけ、協力を呼び掛けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて事業者以外のサービスを受けられる様、地域の他のケアマネジャーや施設と検討し合っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員がいないため、運営推進会議では面識が薄く、協働しているとは言えない。	○	地域包括支援センター職員に、運営推進会議に参加していただくようにする。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望を優先している。基本的に受診や通院は家族同行だが、不可能な場合は職員が代行する。複数の医療機関と連携を結んでいる。		かかりつけ医師が病状を説明するときは、職員が家族に同行を求め、ともに聞けるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の中で、認知症の専門医か、あるいは適切な指示や助言ができる医師により、利用者は認知症に関する診察や、治療が受けられる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師や医療機関との連携が密にとれるよう、体制が確保されている。		深夜の発熱など突発的な状況時に、直接観察を行的確な判断で対処している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時点から退院まで、よりスムーズに短期間で、入院目的の達成に繋がるように、普段から医療機関へ状況を伝え、情報を共有するように努めている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、重度化した場合の意思確認書を作成して、事業所が対応しうるケアについて説明を行っている。		終末期に対する指針を定め、医師・家族を交えて話し合っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の利用者に対しては、医師とともにチームとして支援に取り組んでいる。急変の場合はすぐに対応する。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合は、情報交換を行い、これまでの生活の継続性が損なわれないように、きめ細かい連携を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけが、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねていないか、日常的に確認を行い、改善に向けた取り組みを事業所全体で行っている。	全ての職員に対して、プライバシー保護の徹底や、個人情報の漏えい防止に努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、利用者の自己決定力を尊重し、それを引き出しやすい場面作りを行っている。	○ 皆で利用者一人ひとりの自己決定力にもっと目を向けて、多方面への支援をしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にならないように、常に利用者一人ひとりの状態や思いに、配慮しながら柔軟に対応している。	散歩をしたり、おしゃべりを楽しんだり、利用者のペースにそって見守りながら、一緒に生活している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみや、整髪など本人の好みでおしゃれが出来るように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳などを一緒に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるように、雰囲気作りも大切にしている。	本人の嗜好や、食事の摂取状況に応じ、形態を変えて食べやすいように工夫している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を望む利用者には、職員の管理のもと、希望に沿って楽しめるようにしている。好みのおやつ、飲み物なども摂れるように支援している。	煙草については防火体制の観点から、管理がむずかしい。今のところ希望者もいない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、オムツに頼ることなく時間毎のトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む利用者に対して、言葉かけや対応を工夫し、一人ひとりに合わせた支援をチームで行っている。希望日を確認し、習慣に合わせた入浴を提供できるようにしている。		入浴中は、利用者と職員の間でコミュニケーションもとれており、楽しい雰囲気である。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えて、ゆっくりと眠れるように支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの、力が発揮できる仕事をお願いしているが、楽しみごとや気晴らしも各々違うので、その方に合わせた支援をしている。また、行事なども話し合いながら計画している。		車いすの利用者をもっと外へ出かけられるように体制を整えていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は小額のお金を所持しており、希望があればパン屋で買物することを支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や希望に応じて、心身をリフレッシュできるよう、日常的に散歩やドライブに出かけている。		車を利用せずに、園庭で散歩したり、ティータイムを設けたりして少しでも戸外の空気を感じられるようにしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の思いを家族に伝え、墓参りや外食に出かけていただく機会を作り、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の力で、遠方の家族へ年賀状を出せるよう、書く作業を支援したり。電話に関しても職員が間を取り持ち、利用していただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただけるようにしている。訪問時間は定めておらず、御家族に都合の良い時間帯に来訪いただくよう配慮している。		自室でゆっくりとくつろいでいただけるように、椅子なども準備し、お茶も用意している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によって利用者が受ける、身体的・精神的弊害について、全職員が理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。		ミーティングなどでも、特に身体拘束には十分配慮するように、勉強会を設けている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることはない。利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めることなく、一緒に出てみる。安全面に配慮しながらも自由な暮らしを支えるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全員の状況を把握するために、利用者と同じフロアで記録など、事務作業を行うよう努めている。夜間は2～3時間毎に確認し、起きられたときもすぐに対応できるようにする。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	暮らしの場であり、洗剤やハサミ、薬などが身近にあるのは必然なことである。一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐために工夫や検討を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故には至らないヒヤリハットの報告や、危険が予測される場合は、職員が気付いたことを収集し、事故防止に活かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応について、マニュアルを整備して周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年二回の避難訓練を行っている。事業所だけの訓練だけでなく、自治会の協力をもらいながら、住民参加の訓練をしている。	○	夜間発生時の訓練を、何回か行っていく必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりの心身の状況に応じて、起こり得るリスクについて家族へ説明している。また、その時ばかりでなく、状況の変化が起きたときは、その都度、個別で見直しを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックは毎日行い、常に顔色や様子に注意し、異変を見逃さないようにしている。変化があれば管理者に伝え、必要に応じて早めに医療機関への受診を行う。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服薬を把握できるように、職員が服薬ファイルの作成をする。内容に変更があった時は、申し送り等で伝達し、職員間の情報の共有に努める。	○	薬局と情報交換を行う。必要があれば、薬剤師を招いて服薬支援のための勉強会を設けている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、食事やおやつなどのメニューに乳製品や繊維質の多いものを取り入れている。施設内の歩行訓練などを行い、薬だけに頼らないように配慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は、各利用者に応じて、口腔ケアを行っている。義歯の管理や手入れについても、利用者が確実にできるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や飲水について記録をとるようにしている。栄養状態の把握はもちろんのこと、状態に応じて食事の形態や内容を考慮し支援している。		病状によっては、水分制限が必要な利用者への対応は、職員全員が常に観察し把握することに努め、悪化しないようにしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	季節・地域の感染発生状況を情報収集し、早期発見・対応に努めている。同意書にサインの上、利用者・職員ともにインフルエンザの予防接種を受けている。		手拭きはペーパータオルを全員使用する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮で安全なものを使用するために、指定の店舗に毎日発注し、配達していただく。冷蔵庫内は食材残りの点検を頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	園庭の入り口には、花壇やプランターがあり、玄関には容器に生けた花を飾ったりして、季節を楽しめるように演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは台所と一体化しており、家庭的な雰囲気味わえるように、演出している。また、季節感を意識的に取り入れるようにしている。	○	季節の移り変わりに、部屋の模様替えをしたり、入口の飾りを工夫している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに2~3人座れるスペースがあり、利用者同士で会話したり、テレビを視聴できる。ベランダや玄関には椅子を設け、利用者が腰掛けて外の景色を楽しめるように、工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物(写真・鏡・小物など)を取り入れて、安心して過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房器に偏らず、温度調整に配慮し、部屋の窓の開閉をこまめに行い、換気に努めている。外界との温度差がある場合は、利用者の様子を伺いながら調整する。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子利用者に対しては、本人の活動を重視し、状況に合わせて浴室やトイレ、廊下などに手すりを付けるなど環境を見直し、自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	気になる汚れや、意に介さない表示などを補修することに努めている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ティータイムにベランダなどを利用して、憩いの場所としている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどいない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいのが ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない

項 目			
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどいない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどでない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○認知症についての学習会や研修に、出来るだけ職員全員が行けるよう勤務を配慮している。○訪問介護事業所やデイサービス事業所と連携して、様々な情報交換をし、事業所全体の、質の向上を図る努力をしていく。